

輝石

～追～

洗足学園高等学校 高校2年 学年通信 2020.05.18 発行
(活動メモより特別号④)

いつも変わらぬオンライン授業へのご理解、ご協力ありがとうございます。来週は定着度確認テスト週間とし、オンライン授業での学習内容の定着度を確認します。自立した学習態度を求められてきた生徒たち、その努力の成果が出せるよう、しっかり準備をして臨んでほしいと思います。

活動メモ特別号も4号目の発行となりました。生徒たちの、自分ごとに落とし込んだ、等身大の意見に説得力を感じたり、柔軟な発想力に感心させられています。まさに新しい時代を切り拓いていく、力強い若者たちです。

5月9日(土) 『9月入学制度、あなたはどのように考えますか』

S先生からの問い

高2B I.H

私は9月入学に賛成です。海外に住んでいたとき、9月から学校は始まり、6月上旬には一年が終わります。そこでフルで2ヶ月の夏休みがありました。もちろん、年度替わりのため、宿題はありません。その時期を活用し、海外の生徒はSummer Campに参加する人がほとんどです。普段とは違う先生や学生、友達と自然の中で様々なことに特化して行われます。私はwriting/speechというテーマでsummer campに参加するなど遊びだけでなく楽しく学べる環境がたくさんありました。Gymnasticsやmusicのsummer campも多かったです。日本に帰国後、夏休みにアメリカに行き、summer campに参加したいと試みたことは数回あったのですが、参加したいプログラムは、6月下旬であったり、7月上旬であったため、参加することができませんでした。世界がグローバル化するなか、そして海外経験を増やそうとしている日本社会で今グローバルスタンダードに合わせることはとても大切だと思います。特に日本ではこの制度をとり入れることにより、真夏の猛暑が始まる7月、8月に登下校をせずすむため、とても良いと思います。



高 2F Y.M

まず、なぜ日本が 4 月始まりなのかを調べた。日本の学校が 4 月始まりになった背景には、国の会計年度が関わっている。会計年度とは、歳入・歳出の区切りとされる期間のことで、通常は 1 か年を 1 会計年度としている。明治 19 年（1886 年）に財政法という法律で「4 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで」と定められた。会計年度が 4 月始まりになった主な理由は、当時は農家が多く、政府の税金収入源は米だったため、秋に収穫した米を現金に換え、納税されてから予算編成をしていくには、1 月始まりでは間に合わなかったからだそうだ。それに合わせて学校も 4 月はじまりとなった。

今学校によって学習のペースにかなりの差がある。私たち洗足生はかなり恵まれている方である。しかしこのような状況になり、9 月入学にしようという意見が出ている。地域による学力格差の解消につながり、秋入学が主流の欧米に合わせることで国際化も推進できるというメリットがある。しかし新型コロナウイルスの脅威と向き合う期間が長期化する可能性もある中で、入学時期をずらすことの効果は不透明だと思う。

学びの格差を少しでも解消していくことが最優先であり、学校を再開できることが一番理想的である。ただ休校が長期化したり再休校の事態を想定すれば、パソコンなどの貸与をはじめオンラインの環境整備を急いだ方がよいのではないか。また、4 月入学である必然性があるわけではないが、上記に示したことによると、さまざまな制度を変える必要もでてくるようだ。今、それが可能な時期だろうか。

昨年、英語の民間試験導入などを取り入れる大学入試改革が実上破綻したことも考えると、もう少し慎重に考える必要があると思う。

5月11日（月） 『2つの評価の方法』

A 先生からの問い

高 2A I.M

部長や委員長などを決める時に、①同輩同士で話し合って決める②先生、先輩に決めてもらうという 2 つの方法が考えられる。

①のメリットは、いつも関わっている同輩同士だからこそ知っているお互いの性格や普段の態度や行動も考慮することができる。しかし、私はこの子と仲がいいから、嫌われたくないからという個人的な感情が関与してしまう可能性もある。一方で、②のメリットは普段一步引いて後輩、生徒を見ている第三者が決めることによって偏見なくどの子が適任か判断しやすく、また個人的な感情に左右されにくくなる。デメリットとしては、誰にでも同輩にしか気づけない面があるので、それを見落としがちになってしまう。



高2D S.S

評価方法として私が考えたのは多数決と、その事柄を点数化するという方法である。

この二つを比較したときにメリットとして考えられることの一つとして、多数決のほうが効率が良いということがある。点数化するとなると、審査基準を決めていちいち紙に点数を書き、それを集計しなければならないのに対し、多数決では賛成なのか反対なのかで二回数を数えれば済む話である。効率だけで言ってしまうえば明らかに多数決のほうが良いということになる。

しかし、その効率の良さを違う観点から捉えてみると、多数決は点数化に比べ、その事柄の良さの度合いを無視していることになる。その事柄がどれくらいいいのか、またどれくらい悪いのかの度合いは賛成の事柄の中でも反対の事柄の中でも全く異なるはずだ。賛成か反対かの二択だけで決めるとなると、例えば、かなりの高評価で賛成している人が少なからずいたとしても若干反対している人の数がそれより多ければ、それだけで反対という意見に決定してしまう。これは人によっては不平等だと感じる人もいるのではないかと思う。

高2E T.N

ダンス部のオーディションに対して、その場の実技のみで決める方法と普段の行いや態度も考慮しつつ決める方法。

1つ目の実技のみで決める方法では、どんなに今まで上手かった子も下手だった子も同じスタートラインになるので平等であり、全員が同じチャンスを持てるので、平等です。しかし、態度が悪い子が受かった場合そこから半年間一緒に作品を作ってく上で大変なことが増えてしまう事が問題だと考えられます。

2つ目の態度などを踏まえた上で決める方法では、普段から練習を一生懸命頑張った子やまだレベルには達していなくても頑張っている子や伸びしろが見える子が、受かることが出来ます。しかし、選抜なのに対しレベルが少し不安になる可能性があります。

高二になる時、当時の高2の先輩方が今後のために後輩に部活に対して直して欲しいことを書いてもらうアンケートをとった時、「オーディションの基準をはっきりしてほしい」「オーディションでは普段の行いも反映して欲しい」「オーディションなんだから実力のみで決めて欲しい」など、オーディションの審査に対する意見がたくさんありました。なので新高2の私たち同輩で、どのようにしたらいいか話し合ったところ、二つの意見に分かれてしまいどちらもメリット・デメリットがあるので悩み、後輩の意見の多い方にしようと思っていました。ところが、コロナウイルスの影響で部活が出来ないので、今まで私が後輩だった時も気になっていたオーディションの審査をハッキリできる機会だったのに残念でなりません。



高2E M.S

私は、社会人の定義は「自分の意志で社会に対して行動できる人」だと思います。

一般的に言われる「社会人」は、学校を卒業し、親から自立して会社などの組織に入り、サービスを提供する側の人間を指しているのではないのでしょうか。そのように「社会にでている」ということに着目する理由を考えると、日本的経営にヒントが在るのではないかと思います。米国は、制度の基軸が職務であるのに対し、日本は「人」です。人が大事なのです。だから、社会人という言葉で、学生に、学生からの変わり目を意識させ、マナーを身に着けたりすることを促し、会社の都合のいいように、操ろうという意図も感じられます。実際に調べてみると、「面接で社会人と学生の違いを聞かれたときの答え方」などがあって、面白かったです。

しかし、私は高校生や大学生のうちから起業をしている人も、親の家にすみつきながら仕事をしている人も知っています。だからこそ、「学校教育を終えて親から自立していないと社会人とは言えない」という考えに矛盾を感じます。組織に属していなくても、親に養われる立場であっても、社会に対して、自分で考えてアクションを起こすことは十分に可能になってきています。

そこで、私は、社会人の定義を、「自分の意志で社会に対して行動できる人」としました。こう考えておけば、誰かに「社会人経験がないからねー」などと言われても、会社に入る以外の選択肢も能動的に考えられるのではないかなと思いました。

高2F N.S

「社会人」という言葉は、一般的に仕事を持っていて自立している人を指しますが、私はこの言葉の問題点は、無意識のうちに社会の中であるグループを作っていることだと思います。

「私は社会人」と認識することで、「頑張っている」社会グループに帰属しているという意識が芽生え、働いていない人のグループとの間で壁が無意識に形成され、社会が分断されます。

「社会人＝働いている人＝頑張っている」、という認識が世間で定着してしまったことで、社会人ではないとされる人がいかにも頑張っていないかのように扱われるようになってしまっています。そのため、社会人、という言葉の存在が、専業主婦やニートに向ける批判の目、社会から排除する動きを助長していると思います。

働き方、生き方が多様になる今後、「社会人」という言葉は更に社会の分断を進め、「社会人＝金銭的に家族を支える人」になってしまうと思います。誰でも起業ができるようになってきた今、学生でも会社を立ち上げたり、新事業の開発に携わっている人もたくさんいます。この人達は、確かに働いているかも知れませんが、学生である限り、社会人とは呼ばれないと思います。専業主婦でも同じです。実際、専業主婦をしながらちょっとした副業として記事や商

品レビューを書いたり、ものづくりをしている人もいますが、それより「専業主婦」が勝って社会人とはみなされなくなっています。そのため、社会人とは、何か別の役割を持つのではなく、生活するための活動をする人を指すようになると思います

5月13日(水) 『学問を楽しむ』 H先生からの問い

『学問を知っている人は、学問を愛する人に及ばない。学問を愛する人は、学問を楽しむ人に及ばない。』
ノーベル物理学賞を受賞した江崎玲於奈氏の言葉より。

高2A K.R

英語を知るというのは単語や構文を機械的に学習すること、愛するというのは意思を持って学習・利用をすること、楽しむというのは英語での会話をしたり英語で書かれた本を読んだりして時間を有意義に過ごせるようになることだと思う。知るだけでは機会を与えられないと英語に触れず、愛するだけではアウトプットの場を与えられないと知識の段階で止まってしまうと考えた。

私は最初、楽しむよりも愛するのほうが上の表現ではないかと思った。しかし愛するという言葉を英語の学習に落とし込んで考えたときに、興味を強く持つことやそれに積極的になると言い換えることができ、自分の意識が変われば愛することができる。それと比べて楽しむためには知る・愛するの過程をしっかりと踏んで英語を自分のものにしてからでないといけない。愛すという言葉に重いイメージを勝手に持っていたが、使い方によっては意味が変わってくるなと感じた。



5月14日(木) 『新しい価値』 K先生からの問い

14世紀にペストがヨーロッパ社会に与えた影響は三つあったようです。

- ①人口が減り人手不足のために労働者の賃金が上昇し、労働者が経済的余裕を手にした
 - ②教会は権威を失い、国家という意識が芽生えた
 - ③既存の制度では登用されなかった人材が登用されるようになり、社会や思想の枠組みが変わった
- ～同じ現象を悲観的にみることも、楽観的にみることもできますが、現下の厳しい情勢において、敢えて後者のポジションで前向きに乗り切りたいと思います。そこで、若々しい発想をもってコロナ後の「新しい価値観」や「産業の変化」について考えてみてください。

高2A Y.C

外出自粛の影響でテレワークが進み、家からでもそれなりの仕事ができることが分かった。そのため育休の前段階として自宅から出勤する期間を設けたり、育児しながら家から仕事をすることも可能になれば女性の出産後の離職率が下がったり、働く女性にとって優しい国になっていくきっかけになるのではないかなと思う。また都心で3密が多く見られ、他県より緊急事態宣言が長く出されたため、地方も暮らしやすいと思う人が少なからず出てくると思う。若者の中でも少し都心から離れたほうが安心にのびのびと暮らせると思う人が出てくると都心の人口密集が少し緩和されるかもしれない。またオンライン学習の制度もよくなった。塾では積極的

に AI 学習を導入したり、無料でできるオンラインの学習コンテンツも充実してきた。今まで外で展開していた仕事や教育が家でもできる制度が整いはじめることで病気や怪我で外出できない人にとってよりよい環境が整い、格差是正にもつながると思う。

高2D O.R

テレワークをしている親とよく話すのが、仕事も飲み会も授業も、全部わざわざどこか行かなくても家で出来ちゃうね、ということです。さらに、これに関しては少々賛同しかねますが私の親は「卒業式を短縮でやってたりしてるの見て思うけど、それくらいの規模でも十分できちゃうじゃんってなんか思っちゃうよね」とも言ってました。つまり、世の中の当たり前のように行われてきたことには実は”なくてもなんとかなるもの”が溢れているのではないかということです。「例年通り」という固定概念が崩れて言ってるのだと思います。しかし、この状況も長く続いてきて、「早く前までの生活に戻りたい」と前ほど強くは思っていない。今のほうがいいなと思うこともたくさんあります。

このように、様々な産業でも今の時期の過ごし方の中で”いいな”と思ったものはこれからも残っていくと思っています。割といい傾向なんじゃないかと思うのは、AI や ICT 技術の導入場面が増えたことです。この状況になって嫌でもそのようなオンラインツールを使う場面が増えてきて、それらの良さに気づけました。極端ですが学校の授業受けてるときにこっちやりたいなと思ってしまうこともあるほど。現代技術に頼ることへの嫌悪感が減り、その便利さの恩恵を今は感じています。そうになったら「ICT 技術を使いこなせるか」が今まで以上に重視される時代になりそうだな、と思います。また、新たな良さとともに既存の良さを再発見したのも事実です。オンライン授業のほうが良いって思うときもあるけど、学校へ行きたくさんの人の顔をみながら学ぶ日々も本当に楽しくて、なによりそっちのほうが常に前向きでいれます。

つまり、既存の概念への意志が、良い意味でも悪い意味でも薄れていくのが「新しい価値観」だと思います。例えば部活、ずっと変わっていなかった年間スケジュールに依存していたとにかく「そろそろあれ決める時期だよな」だけ考えてきたので、それらを全て捨てて全部自分たちで一から考えてる今年の部活動では、既存概念に執着しないことに対して発見や驚きを感じる毎日です。既存に倣うというのは考える量が少なくてすごい楽ではあるし、それも一つのやり方だけど、それらから開放され、その場での適した手段を選択していくことがなによりも大切になっていくと思う。

高2F N.S

「改革」とは、制度などを改め変えることです。それに対し、「革命」とは、被支配階級が支配階級を倒して政治権力を握り国家や社会の組織を根本的に変えることです。

私なりに「改革」と「革命」の違いを考えてみました。「改革」と「革命」の決定的な違いは主語にあると思います。「改革」を行うのはあくまでも現在の権力者です。つまり、現在の政権を担っている人が現在施行されている制度を見直して改めてより優れた制度にする事です。例えば、郵政民営化などが「改革」の例なのではないかと思います。逆に、「革命」を行うのは被支配者階級です。つまり、政権がひっくり返り、今までの権力者がその座を失って、全く新しい人が権力者の座につくというものです。このときに、政治や経済などの社会制度は根本的に変わります。有名な例としては、王族や貴族から貧困層を中心とした国民が政治的権力を勝ち取ったフランス革命があります。「改革」と「革命」は今までの制度が変わるという点では似ていますが、「誰が」行うのかという点で根本的に異なるものだと思います。



★今後の予定★

5月19日（火）5限 学年集会（Meet）：定着度確認テスト/河合模試自宅受験について
前期進学講習について、23日総合学習について

21日（木）5限 授業変更：（文系）日本史/世界史 （理系）数学 α

23日（土）2、3限 総合学習：詳細は別途お知らせします

25（月）～28日（木） 定着度確認テスト（特別時間割にて実施）

28日（木） 14時～15時30分：高2 オンライン保護者会

29日（金） 河合模試実施（自宅受験）

30日（土） 自宅学習日（オンライン授業はありません）

*変更があった場合はクラスルーム、メールにてお知らせいたします。

★学校の様子★



今年の学校のバラたち。

今年は生徒たちに愛でられることもなく、でも美しく咲き誇っていました。

しっかり勉強してね！



心をこめて置いていきます…



すっかり郵送作業にも慣れてきました！20日に投函予定。今回はテスト・模試（返信用レターパック入り）と教材の2つのレターパックが届きます。届いたら内容物を必ず確認のこと。返信用レターパックの注意事項もよく読んでくださいね。

